

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972600047		
法人名	社会福祉法人 西土佐福祉会		
事業所名	グループホーム にしとさ		
所在地	高知県四万十市西土佐用井1110-39		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果 市町村受理日	平成26年2月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境の中で、入居者の知恵や残存機能を活かしながら、季節の花や野菜を育て散歩等しながら生育を楽しみ、新鮮な食材を使って食事作りをしています。法人、事業所では職員の介護力向上を目指し、自己研鑽や施設内外での研修会へ参加、資格取得等を通じてスキルアップを図っています。また、入居者全員のおむつ外しや認知症改善に向けた学習療法、筋力アップなどに取り組み、入居者の自立支援に繋がっています。また、年間を通じて季節ごとの行事を計画し、地域のイベント等への参加や訪問ボランティアとの交流など、入居者が楽しく、穏やかに、生きがいのある日々を過ごして頂くよう取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3972600047-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3972600047-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年11月22日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の福祉・介護・保健・医療・教育・文化施設等が集合した、自然環境に恵まれた場所に立地している。法人施設では福祉・介護・医療合同のサービス担当者が月2回開催され、ケース検討が行われている。また、法人本部及び事業所は職員会や各種委員会、内外の研修会等を通して、職員との意思疎通や資格取得による介護力の向上を図り、職員がやりがいをもてる働きやすい職場づくりを行っている。事業所では利用者全員の自立に向けた排泄支援や、利用者の能力を活かす取り組みに力を入れ、やさしい声かけと、寄り沿う介護で、利用者が穏やかで生きがいのある生活ができるように支援している。地元の行事やイベントへの参加、小・中学校との交流、地域ボランティアの訪問や近隣住民からの食材の差し入れ、また誕生会や家族作業日への家族の参加等、地域や家族とのつながりを大切にし、地域と一体となって利用者のケアに取り組んでいる事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所共通の理念を休憩室、タイムリーダーの傍、ホールなど目につく場所に貼り、職員会等でも取り上げて振り返り、日々のケアで理念を意識しながら実践している。	「利用者の尊厳を守り、やさしい介護に徹する」という法人と共通の理念を作成し、法人と一体となって取り組んでいる。理念は目につく場所に掲示し、業務の中や職員会で意義を話し合い、意識付けを行っている。日々、理念に沿ってやさしい声かけや利用者の思いに沿った介護を実践している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、地域の祭りやイベント等に参加している。定期的にボランティアの訪問もあり、一緒に地域の話などしながらおやつ作りなどをして、楽しく交流している。また地域で作った野菜の差し入れや、近くの小中学校との交流もある。	地元自治会に加入し、地域の祭りや公民館で開催される各種イベント、小・中学校の運動会等に参加している。おやつ作りや琴演奏等のボランティアの定期訪問があり、交流を楽しんでいる。地域住民からはパンや干し柿、野菜等の差し入れもある。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の高校生や一般住民を対象にした介護職員初任者研修で、認知症について講義している。また運営推進会議で認知症についての話なども行っている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、入居者の生活状況や活動内容、行事予定、外部評価の結果や情報の公表について報告している。参加者からの質問や意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2カ月毎に開催され、年に1回は消防署員が出席して避難訓練の助言をしている。会議では事業所の活動報告のほか外部評価結果や課題について報告し、参加者から質問等が出されているが、運営に関する話し合いや意見が少ない。また、家族への周知が十分でない。	運営推進会議の会議録を家族に送付して全家族への周知を図ることや、議題などの工夫を行い、運営に関してより積極的な意見交換が行われることを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や福祉・介護・医療等合同でのサービス担当者会に地域包括支援センターの職員の参加があり、事業所の取り組みや実情等を報告し、助言を得ている。また介護認定調査などの時にも報告や相談をしている。	利用者の介護認定調査時や運営推進会議、月2回法人施設で開催する福祉・介護・医療合同のサービス担当者会議には、市の担当職員の参加があり、事業所の報告や相談ができています。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加した職員からの伝達研修や勉強会などで、拘束をしないケアを職員に周知徹底している。日中は玄関の施錠はせず、帰宅願望などあり落ち着かない時は、一緒に歩くなどして見守っている。また、食事や移動手段以外は車いすやテーブルは使用せず、自由に動けるよう配慮しベッドからの転倒防止のため離床センサーマットを使用している。	外部研修と法人内研修が年に1回ずつあり、伝達講習や資料配付で職員の共通認識を図り、拘束のないケアを実践している。言葉の拘束についてはその都度管理者が注意している。玄関は夜勤帯を除いて施錠していない。外出傾向のある利用者には、やさしく声をかけ一緒に歩いている。リスクについても家族に説明し、了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員からの伝達研修や勉強会で職員に周知するとともに、事業所に限らず、虐待を発見したときは速やかに通報の義務があることも伝えている。また、法人では職員のストレスが溜まらないように、メンタルヘルスの取り組みや責任者との個人面談なども実施している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所で制度の活用事例もあり、日常生活支援事業や成年後見人制度に関する勉強会を行い、職員の理解を深めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約内容等について詳細に説明し、疑問等には分かりやすく答え、理解・納得を得た上で契約を結んでいる。また改定等の際にはその都度、文書や口頭で説明を行っている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の関わりのなかで要望や意見を聞いたり、アンケートを実施し結果について職員会等で検討している。また第三者委員も設置している。家族等には相談窓口を説明するとともに、面会時や電話連絡時、家族会等で意見や要望がないか確認している。	利用者には日々の場面で、家族には面会時や電話、毎月の手紙の中で要望や意見を聞いている。また利用者と家族それぞれに年1回アンケート調査をしている。相談窓口として第三者委員を設置しているが、意見や苦情は出ていない。法人全体の家族会はあるが、事業所独自の家族会はない。	事業所に家族が集まる誕生会や家族の作業日等の機会、または新しい行事を企画して、事業所独自の家族のみで話し合う場を設け、家族が意見を出しやすい環境をつくることを期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や普段の業務の中で職員の意見や提案を求めている。出された意見は全員で話し合い、可能な限り改善している。また、理事長との個人面談や主任会での意見や要望も可能な限り反映され、職員の休憩室も増築された。	管理者は普段の業務の中や職員会で、職員一人ひとりに提案を聞くほか、理事長との個人面談も行っている。休憩室の増築や、事業所への坂道の見晴らしを良くしてベンチを置く等、職員からの提案は主任会で話し合い、運営に反映している。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善手当や資格手当の支給など、キャリアパスに向けた支援を行うとともに、休憩室の拡大整備を行い、働きやすい環境づくりに努めている。また、代表者との個人面談や職員交流を行い意見交換の場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な施設内研修のほか、キャリアに応じた施設外研修に参加する機会を設けている。自己目標を掲げて自己研鑽したり、資格取得に向けた勉強会を実施している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内や地域のグループホーム連絡会に加入し、ネットワーク作りや勉強会、情報交換会等を通して得た知識、技術等をサービス向上に活かすようにしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはホームでの一日の流れや外出・外泊も可能であること、職員が24時間体制なのでいつでも相談できる事などをお伝えし、また本人の思いや希望、要望など引き出せるようにゆっくり時間をとり、信頼関係を築くようにしている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはホームでの一日の流れや外出・外泊も可能であること、要望やご意見、困っている事や不安なことなどないか尋ねるとともに職員が24時間体制なのでいつでも相談できる事などをお伝えしている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望に沿いながら関係者等からも情報を収集し、必要な支援を見極めるとともに状況に応じて上司やケアマネジャー、地域包括支援センターの職員に相談しながら対応している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや洗濯、花や野菜の育て方など日常生活の中で入居者の経験や知恵、残存能力を発揮しながら支援している。また喜びや悲しみなども共有し、家族の一員として共に支え合いなが暮らす関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の様子や出来事、体調等について面会時や随時の電話連絡、毎月のお便り等で報告や相談を行い、必要に応じ家族の協力を得ている。また、家族と外出や外泊もしており家族からも情報も得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地の行事などに参加したり、墓参り、初詣、行きつけの理美容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。また、事業所全体で行われる、納涼祭や文化祭などには家族や地域の方も大勢来られ、一緒に会食など楽しまれている。	利用者のこれまでの人間関係等を本人や家族、入居前のケアマネジャーから聞き取り把握している。出身地の祭りや初詣、墓参り等年に3～4回、自宅訪問も兼ねてドライブに行っている。また行きつけの理美容院を家族の協力も得て利用し、馴染みの関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が隣り合うよう席を配慮したり、みんなで楽しめるゲームや手作業などの場面作りをしている。また、入居者が孤立したりトラブルがないように見守りが出来るよう職員配置を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る際は、関係者にこれまでのケアの工夫や本人の状況等を詳しく伝え、その後も必要に応じて家族や関係機関へ情報提供をしている。また他の施設に移った方の面会に入居者と一緒に行くなどして、関係の継続に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で希望や意向を随時尋ねている。意思表示の困難な方には、本人と向き合った眼差しや表情の中から気持ちを汲み取ったり、家族から情報を得るなどして対処している。	お茶の時間等に利用者の思いや希望等を聞いている。外出の希望や、できる事は自分でやりたい等の利用者の思いを聞いて、それに沿った支援をしている。また、介助についても本人の了解を得て行っている。意思表示が困難な利用者には、家族から情報を得て検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や暮らし方など、プライバシーに配慮しながら情報を収集している。また、関係施設やケアマネジャーなどから、これまでのサービス利用の経過等の情報を収集している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の関わりの中で職員の気づきを共有し、また随時行うカンファレンスやモニタリングを通じて現在の心身の状態や生活状況、残存能力など総合的な把握に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者・家族の意見や要望を聞き、計画に反映させている。毎月職員全員でカンファレンスを行い、職員の意見やアイデアを反映しながら計画を作成し、家族の同意を得ている。毎日の実施状況のチェックや毎月モニタリングを行い、状態の変化時や介護保険更新時には随時計画の見直しを行っている。	毎月の職員会でカンファレンスを行っている。本人や家族の意見・要望を聞き、また必要に応じて医師の助言も聞いて計画作成担当者が介護計画を作成し、家族の同意を得ている。モニタリングは月1回、計画見直しは定期を6ヶ月とし、その他変化があった時は随時に見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の生活状況や状態の変化、受診状況などを記録し、重要なことは業務日誌や申し送りノートに記載して職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近くの診療所や歯科、市外にある専門医への通院、金融機関への付き添いなど状態に応じて入居者や家族の希望に沿いながら柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の周辺には福祉・介護・医療・教育・文化・商業施設などがあり、本人や家族の希望などを聞きながらこれら地域の資源を活用できるよう支援している。また訪問販売を利用したり、行きつけの理美容院なども利用している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で近くの診療所が主治医となっており、定期的および体調不良時や怪我などの際は随時通院し、主治医から指示をもらっている。家族と受診した時は家族から情報を得て、職員が介助した際は家族から結果を報告している。また主治医の紹介で専門医を受診する際は、家族と一緒に職員も同行している。	本人、家族の希望で近くの診療所がかかりつけ医になっている。4週ごとに定期受診し、家族には変化のない時は面会時や毎月の手紙で知らせ、薬の変更や発熱等がある時はその都度連絡している。希望する専門医の受診は家族対応を基本にし、管理者が同行することもある。受診結果は家族と職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調の変化を見逃さないように観察力をつけ、早期発見に努めている。必要に応じて法人の看護職員に相談しながら適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は本人の身体状況や支援方法などの情報を提供し、安心して治療が出来るようにしている。また、地域包括支援センターの職員・担当医・看護職・介護職など合同で開催する担当者会議で情報交換している。入院中は出来る限り面会したり電話で情報を得るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にターミナルケアは行っていない事、事業所でできることを本人および家族に説明している。また状態の変化に応じて本人や家族の意向を確認し、主治医や関係者とも相談しながら、必要に応じて他の施設に移るなど周辺の関係施設と連携して支援している。契約が解除になっても、面会に行ったり、家族への支援など出来る限りの対応をしている。	入居時に、事業所では終末期ケアを行っていない事や事業所でできる対応を本人と家族に説明している。利用者の状態に応じて、他の施設や医療機関と連携し、家族の意向に沿いながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に適切な対応が出来るよう、消防署の協力を得て救命講習を受講したり、対応マニュアルの周知や折にふれて対応の仕方を指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を得て火災・地震・土石流などの災害時非難、通報訓練を行い、非難経路の確認や消火器の使い方などの訓練を行っている。年に1回は地区の防災協力員にも訓練に参加してもらっている。	年2回の防災訓練と職員による炊き出し訓練の計3回の訓練を行っている。訓練は夜間・火災・地震・土石流を想定して昼間に行い、地域又は近くの施設の防災協力員の参加を得ている。消火器等の設備点検は定期的に行い、非常用の食料品等は消費期限を明示して備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳保持やプライバシーの保護、守秘義務について職員研修や日頃から口頭で周知徹底し、日々のケアの中で尊厳を守り、プライバシーの保護に努めている。	排泄はさりげなく声かけして利用者の居室のトイレを使用し、入浴は職員と1対1で行う等、日々利用者の尊厳を守るケアに取り組んでいる。プライバシー保護については、事業所外で利用者について聞かれても話さないことを職員に徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の入居者との関わりの中で、本人の要望や希望などを本音で話せる雰囲気づくりをしたり、選択肢のある声かけをするなどして自己決定できるよう支援している。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、日中の過ごし方など本人の生活スタイルに合わせ自由に行っている。食事や入浴の時間などだいたいの日課はあるが入居者の希望や状況に応じて可能な限り柔軟に対処している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服を自分で選んでもらったり、選べない方には家族から好みを聞いてその人に合った洋服を着ていただくようにしている。また、行きつけの理美容院で整髪したり、外出時や行事などの時は希望者にはお化粧品もしている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	大体のメニューは決まっているが、事業所で育てた旬の野菜や地域からいただいた食材を使って入居者と一緒にメニューを考えることもある。食材の切り込みや配膳、片付けなど職員と一緒にできることをしながら食作りを行い、昼食は職員も一緒に同じものを食べている。	献立は法人の栄養士のメニューを参考に、職員が交代で1週間分を作成している。差し入れられた食材や庭の畑の野菜を使ったり、利用者の希望を聞きながら献立している。食作りは準備から片付けまで、利用者もできる事を職員と一緒にやり、会話しながら和やかに食事をしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態を提供し、水分や食事摂取量を随時チェックしている。摂取量が少ない方には時間に関係なく補食している。毎月体重測定をし、必要に応じて主治医や法人の管理栄養士に相談している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいを行い、義歯の消毒も行っている。個々の状態に応じて声かけ、見守り、介助を行っている。外出後は必ずうがいの励行をしている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調不良や外出時以外は紙パンツは使用せず、布パンツと尿パットのみで対応し、おむつ外しに取り組んでいる。行動や表情の観察、排泄チェック表から個人ごとに排泄時間の把握に努め、さりげない声かけやトイレ誘導を行い、自立支援に向けた支援を行っている。	3年前から、おむつを使用しない排泄の自立支援に取り組み、利用者の観察や排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。利用者全員が昼夜とも、布パンツと尿パッドを使用し、布パンツのみの利用者も数人いる。同時に利用者の十分な水分摂取にも取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食材を使った献立、水分補給、散歩、体操などで自然排便が出来るよう支援している。下剤を服用している入居者はいない。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午後の入浴であるが希望や外出予定などにあわせて柔軟に対応している。職員とマンツーマンでゆっくり会話しながらヒノキ風呂で入浴されている。入浴を嫌がられる時は時間を置いて、再度声かけの工夫をしている。	入浴時間は午後になっているが、利用者の希望や外出に合わせて柔軟に対応している。ヒノキの浴槽で、入浴介助は1対1で行っている。毎日入浴する利用者もいるが、大半は2日に1回程度の入浴を希望している。入浴を拒む利用者には、散歩に誘い、再度声をかける等の工夫をしている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて自由に過ごして頂くようにしている。夜間不眠がある方は日中、散歩や軽い運動、水分を多く摂取し、夜間は安眠できるように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに薬の説明書を整理し、職員が内容を把握できるようにしている。新しく処方されたり、変更時は随時口頭および日誌掲載、申し送りノートで共有している。服薬時は職員が手渡し、服薬を確認し、服薬後の状態観察を行っている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や生活歴等を考慮しながら状態に合わせて、花や野菜の世話、作品作り、洗濯、調理など得意分野に力を発揮できるように支援している。また、入居者の好きな食べ物や飲み物等も家族から差し入れてもらったり、ホームからできるだけ提供するようにしている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や近くへのドライブは日常的にしている。また、彼岸や盆の墓参り、初詣、外出や外泊など、家族の協力を得て行なっている。また花見やホタル狩り、年に2回市外への遠足も実施している。	日常的に周辺の散歩や庭の畑の世話、歩行練習等で戸外に出ている。車椅子の利用者も交替で一緒に出かけている。利用者の希望に沿った地元の行事への参加や家族の協力で初詣、墓参り等に行ったり、事業所の行事で遠足、ホタル狩り等に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の希望で基本的にはお預かりしているが、訪問販売時や外出時には買いたいものを自分で選んで支払ってもらうよう支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は職員が電話を掛け、取り次いだり家族からかかってきた時にも本人が話をしている。携帯電話を持参し自由にかけている方もいる。また家族、親戚、知人などに年賀状を出されている方もいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように玄関やリビング、居室に四季の花を活けたり、季節の行事やイベント時の写真を飾っている。また季節の花や野菜を育てリビングから眺めたり、散歩をしながら楽しめるようにしている。天窓もあり、適度な光が差し込んでいる。浴室には檜風呂でゆっくり個浴が楽しめるようにしている。	共用空間は木の造りで、天窓から自然光が差し込み、ゆったりしたリビングに食卓とソファを配置している。壁にはイベント参加時の利用者の写真や、季節の花を飾り、手作りの日めくりカレンダーもかけて親しみやすい居心地の良い空間にしている。また、玄関先のプランターや軒先の干し柿など生活感や季節感に配慮している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士でテレビを見ながら談笑できるようにソファを置いている。リビングには所々に一人がけ用の椅子を置き、自由に好きな場所でくつろげるように配慮している。また散歩や外気浴をしながらゆっくりくつろげるように外にもベンチを置いている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し本人が必要なもの、馴染みのもの、使い慣れた物、写真等を持参してもらい、本人の希望を聞きながら配置している。家族の面会時には居室でゆっくりくつろいで頂けるように配慮している。	利用者の馴染みの身の回り品や、こけし人形、家族の写真、孫が描いた絵などを置いて、个性的で居心地のよい居室になるよう工夫している。居室はベッドと押入れ、トイレが備え付けられ、ベッドは安全な高さに調整している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には可能な限り手すりを取り付け、各居室には洗面台やトイレを設置し、安全、安心して自立した生活が送れるよう配慮している。ベッドの高さも本人に合わせて調整し、自分の力を発揮しながら自立した生活が送れるように配慮している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない